平成26年度　刈谷城跡発掘調査　現地説明会資料

刈谷市教育委員会　文化振興課

平成27年　1月17日(土)10:00～　於：亀城公園内

1．刈谷城について

刈谷城は、天文２年（1533）に水野忠政が金ケ小路のほとりに築城したのが起こりで、江戸時代になって水野勝成を初代藩主として９家22人の藩主によって刈谷藩が治められました。

明治４年の廃藩置県後、刈谷城は政府の所有となり、城郭建築は入札によって払い下げが行われ取り壊されました。その後は大正２年に大野介蔵に売却され保存されたことを経て、昭和11年に刈谷町に売り渡され、翌年には亀城公園となりました。

江戸時代中期までの城絵図では、本丸の北西と南東の隅には２層の櫓があり、辰巳櫓（南東隅櫓）の両側には多門櫓が石垣とともに延びて表門・裏門へと続いていることが確認できます（図１）。

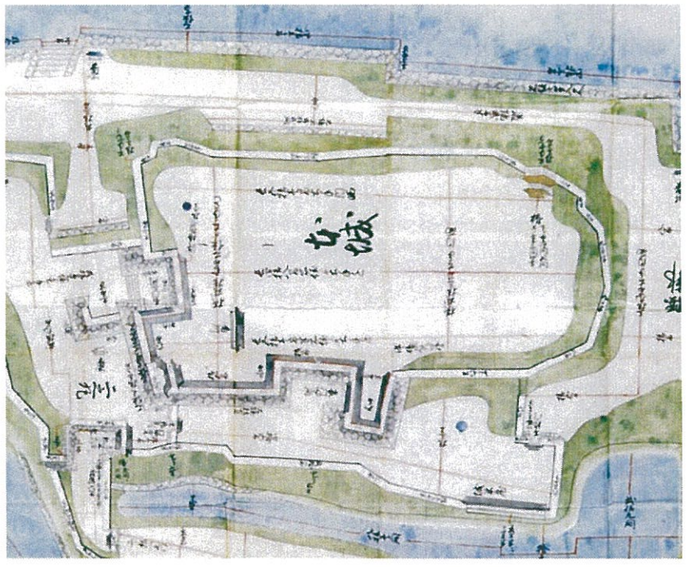


図１　刈谷城絵図（本丸部分　江戸中期）

2．調査の経緯

刈谷城跡の発掘調査は、亀城公園再整備事業に伴い平成21年度から実施しており、今年度は第５次の調査で、計画の最終年度になります。調査区は本丸の表門から裏門へと続く多門櫓のうち、表門から辰巳櫓までの部分と、裏門付近の２か所で、5月19日から現地調査を開始しました。調査面積は約1,550㎡です(図３)。

3．調査の目的

調査の目的は、表門から裏門へと続く多門櫓と辰巳櫓の配置や規模を確認することです。石垣そのものは残っていないため、石垣を築く際に地面を溝状に掘り、中に拳大の石を大量に入れて地盤を強化した「地固め」の痕跡をみつけることを中心に調査を進めました。

4．これまでの調査成果

（1）多門櫓

辰巳櫓から裏門に至る多門櫓の櫓台石垣を築くための地固めの一部が見つかっています（図２、４）。本丸面で櫓台の内側の石垣の地固め、帯郭面で外側の地固めが見つかり、それらが南西－北東方向に並行して直線的に延び、外側の石垣の地固めについては裏門手前でクランク状に折れ曲がる状況が確認されました。また、裏門から北東へ続く多門櫓の櫓台の外側の地固めの一部も見つかりました。

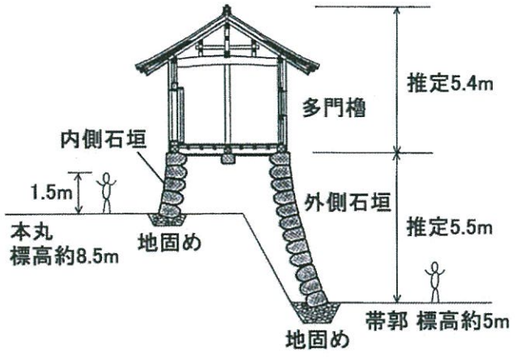


図２　多門櫓と石垣の断面模式図

（2）表門

表門に伴うと思われる礎石跡と雨落ち溝が見つかっています。礎石跡は西側の２基と東側の４基 が並列し、雨落ち溝もそのすぐ東側に並行していました。

（3）裏門

裏門に伴うと思われる礎石跡と、帯郭から裏門へと登る坂道が見つかっています。坂道は裏門の手前で平場となり、裏門との境界にあたる場所には石段の跡と思われる地固めが見つかりました。

（4）辰巳櫓

本丸面において、裏門から続く多門櫓の櫓台石垣の地固めが西へと向きを変える状況が確認されています。

5．今年度の調査成果

（1）帯郭東門

辰巳櫓の東側に門跡を確認しました。江戸中期の城絵図をみると、門は石垣の上に構築されている様子が伺えますが、石垣の基礎である地固めが、南東方向に延びている状況を確認しました。また、この地固めの北東側には、直径１ｍほどの大きな柱跡を２基確認しました。この柱跡は、地固めとの位置関係から、門を支える控え柱跡であると考えられます。

（2）辰巳櫓

辰巳櫓の櫓台石垣に伴う地固めの南東角を確認しました。平成23年度の調査で確認した北西角と合わせて考えると、辰巳櫓に伴う地固めの規模は約13×11ｍになります。

（3）多門櫓

辰巳櫓から表門へと延びる多門櫓の櫓台石垣に伴う外側の地固めを確認しました。この地固めは、辰巳櫓から北西方向へと延び、ほぼ直角に曲がって北東方向へと延びていきます。その先は、コ字状に曲がって多門櫓に伴う内側の地固めとして延びていくものと思われますが、大きく壊されていたため、確認できませんでした。

（4）表門

公園の土管が埋設されていた溝の東側の壁面で、表門から北西側へ延びる多門櫓の櫓台石垣の地固めと思われる拳大の礫を多く含んだ落ち込みを２か所、西側の平面および壁面で１か所確認しました。東側の壁面より表門側については大きく壊されているため、全貌は確認できませんでしたが、多門櫓の地固めは枡形に周回する可能性が考えられます。

（5）裏門

裏門西側を廻る多門櫓に伴う地固めの一部と、裏門北東側から裏門正面へと廻る多門櫓に伴う地固めの一部を確認しました。裏門西側を廻る多門櫓の地固めでは、落ち込み（段差）が確認できる箇所がありました。この地固めの落ち込みは、平成23年度調査で確認した裏門の手前にある平場と裏門との境界にあたる場所で確認した石段跡と思われる地固めと位置関係が合うことから、地形に合わせて石垣の基礎である地固めも高低差を持たせて構築していたことが分かりました。
また、平成22、23年度調査において確認された礎石跡と柱筋の合う礎石跡を確認しました。この礎石跡は、裏門に伴う構造物の礎石跡である可能性が考えられます。

（6）出土遺物

ほとんどが廃城後に移動された土からの出土ですが、多量の瓦片と少量の陶磁器片が出土しました。瓦片の中には「立ち沢瀉紋」や「八本柄杓水車紋」など、刈谷藩主の家紋のついた軒丸瓦もありました。地固めの中からも土井家の家紋瓦が出土していることから、土井家が藩主の時代に石垣の改修があったと考えられます。

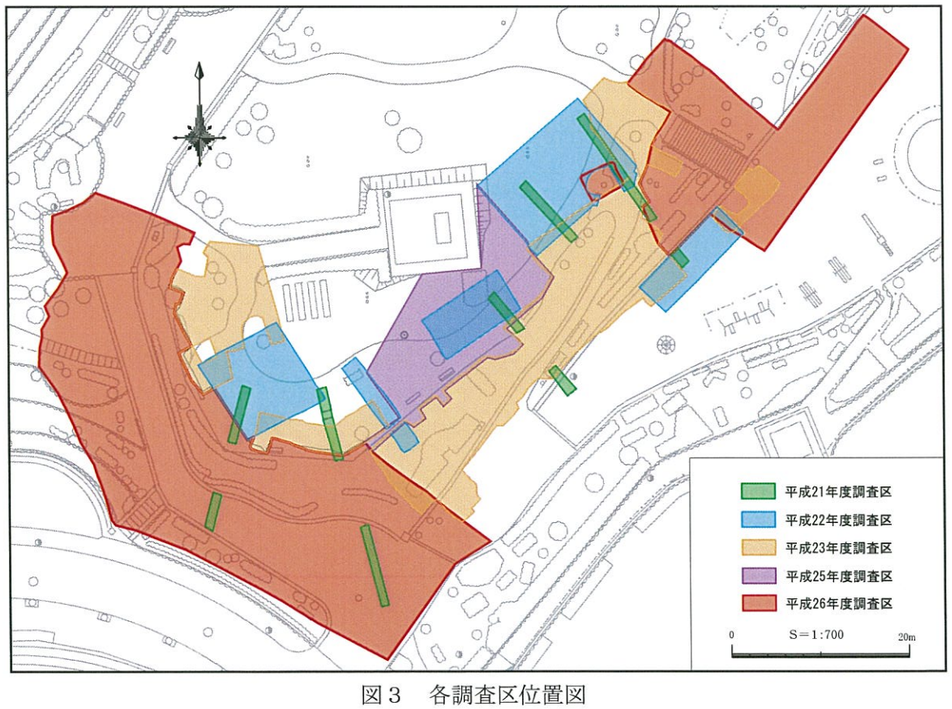
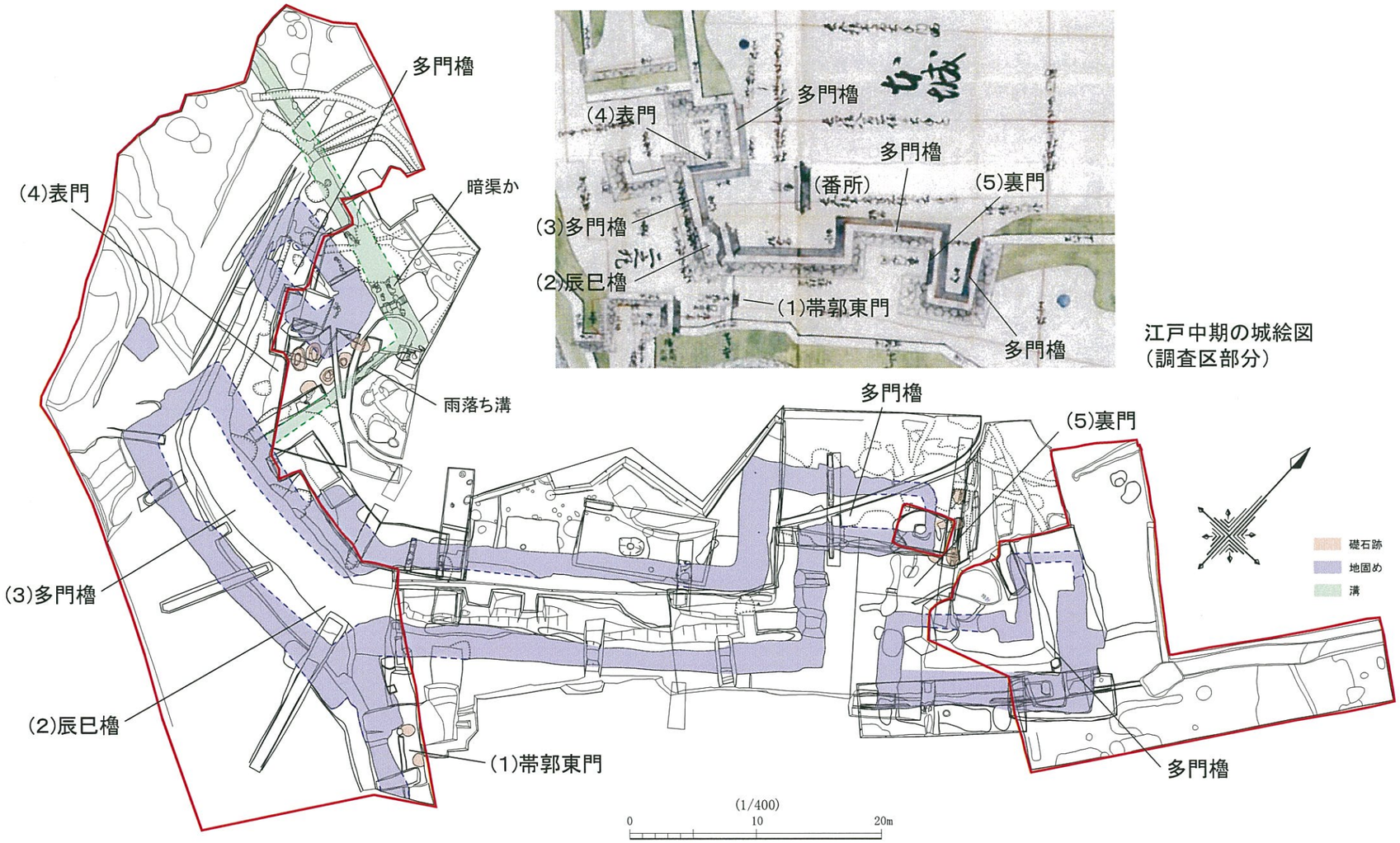


図３　各調査区位置図



江戸中期の城絵図
(調査区部分)

(4)表門から北西側へ延びる多門櫓に伴う地固め

(5)裏門北東側の多門櫓に伴う地固め

(1)帯郭東門に伴う地固めと礎石跡

(2)辰巳櫓に伴う地固め(南東隅)

(3)辰巳櫓から表門へ延びる多門櫓に伴う地固め

(6)出土遺物(家紋瓦)

図4　発掘調査で見つかった遺構　(赤枠:今年度調査区)